

特集 元気に出会う！

川の恵みを楽しむ
豊かな未来のために今、できること

azbil FIELD

株式会社 日本触媒 姫路製造所

azbil MIND

中国現地法人の営業機能および生産拠点の統合により
現地のお客さまの価値最大化を目指す



我很想在新教室里好好学习。



それ、
流れてけー

おさかなポストとは？

飼いきれなくなった魚を引き取る生けす。生けすに入れられた魚は病気などの確認や消毒をしてから、里親に育ててもらふ。生けすは川崎市多摩区稲田公園内にあるが、無人なので、送る場合は山崎さんに連絡すること。



子供たちの環境教育にも役立つ「おさかなポスト」。残念ながら飼えなくなっても、多摩川に放流せず、ここへ持ち込もう。

公園の一角にある「おさかなポスト」。この日は大きな金魚が2匹入っていた。



ポストの横にはカメラ専用の生けすが、「おさかなポスト」に入れられたカメラたちだ。

「おさかなポスト」の連絡先
TEL : 090-3209-1390
E-MAIL : RiverRanger@excite.co.jp

川の恵みを享受する 豊かな未来のために 今、できること

「おさかなポストの会」代表 山崎充哲さん



1959年神奈川県川崎市生まれ。日本大学農獣医学部水産学科卒業後、釣り具メーカー勤務を経て、自然環境コンサルタント会社を設立。「おさかなポストの会」代表。「ガサガサ水辺の移動水族館」館長。川崎河川漁業協同組合総代。東京都レッドデータブック選定委員。著書に『いのちの川』（幻冬舎）がある。
「ガサガサ水辺の移動水族館」HP
<http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/>

川に落ちる疑似体験をする子供たち。川に流される体験をすることで意識が変わる。

復活した多摩川に 新たな問題が発生中

多摩川の下流域は、高度経済成長時には「死の川」と呼ばれるほど汚染のひどい川だった。それが、現在ではアユが200万匹も遡上するほど、きれいになっている。

ところが魚が棲める清流として復活した多摩川には、新たな問題が浮上している。外国産のナマズ類やカラフルな熱帯魚など外来魚が200種類も確認され、アマゾン川になぞらえて「タマゾン川」とも呼ばれているのだ。巨大な肉食魚の登場やほかの生物の卵を好物とするグッピーなどの増殖によって、多摩川の生態系が脅かされている。また、固有種にこれまでになかった病気の伝染も深刻な問題だ。このような外来種の多くは、人間に放流されたか、放流後に自然繁殖したものだ。

そのような外来種の放流を食い止めるようと、山崎充哲さんは多摩川の畔に「おさかなポスト」を設置した。これは月曜を除く毎日10時～16時なら誰でも自由に出入りできる生けすで、淡水で生きる魚やカメラを水槽の中に放流することができる。

東京都と神奈川県の人口密集地を流れる多摩川。清流として復活した多摩川は、ペットとして飼われていた魚が放流され、外来種が生息する「タマゾン川」と呼ばれる事態に。環境保全と生物多様性の重要性が問われる今、多摩川での山崎充哲さんのユニークな取り組みが全国から注目を集めている。

Text: Takashi Watanabe (editor's CAMP) Photo: Yoshinori Tanomoto



「あ、捕えろ〜」

流れが穏やかな浅瀬で一斉に捕獲作戦開始。「ハチ以外は何でも捕まえていざ〜」との声が響いた。



シマドジョウ



山崎さんとスタッフたちは、子供たちの安全を見守りながら、上手な捕り方をアドバイスしていく。捕まえた生き物を山崎さんたちに見せると、すべて名前を覚えてもらえるから、子供たちもうれしそうに獲物を見せに来る。

す。人間の都合で命を軽々しく扱ってはいけない。それを伝えていくのがこの活動の最大の目的です」

里親は「おさかなポスト」の会員登録が対象だ。個人は入会金1万円・年会費6000円、法人は入会金10万円・年会費6万円。会費制をとっているのは、市場で価値のある生き物を扱うことが多いため、転売を防ぐ意味合いもある。

「どうして生い立ちの生き物かを多くの人に見てもらうには、学校や企業に里親になってもらうのがベスト。また、大や猫と違って何十年も生きるものもザラにいますから、引き継いで育てていくことができる環境であることも大切。先輩から後輩へ命の尊さを伝えていくという点で学校が理想的です」

先日持ち込まれた魚、アリゲーターガーバイクの寿命は200年以上。現在80cmほどの体長は最大4mに達する。お祭りでおなじみのミドリガメも上手に飼えば50年も生き、体長は30cmにもなる。

「魚もカメもインテリアではありません。命の大切さを認識し、飼育の責任の重さを知っていたら、生き物を安易に飼いはじめることはいけません。時には飼わない勇気が必要だということも、子供たちには学んでほしいですね」

川遊びの楽しさを伝える水環境教育

山崎さんは、川の魅力を伝える環境教育活動にも熱心に取り組んでいる。その主軸が「ガサガサ水辺の移動水族館」だ。これは子供たちが多摩川に生息する生き物たちを観察したり、生き物に触れ合ったり遊べる移動水族館。紙芝居で多摩川の素晴らしさについて学び、川付近で実施されることもあり、その場合は川遊びを体験する、より濃い内容となる。

「今の小学生と同じように、その親の30・40代も川に関しては無知であることが多い。それこそは、彼らの幼少期は、多摩川は汚い・臭い・危険の3Kといわれ、満足に遊ばせませんでしたから。今も多摩川は遊ぶような川じゃないという嫌悪感が多くの人に根強くあります。でも、多摩川で獲れたおいしいアユを食べたり、自分でいろうな生き物を捕まえたりすると、パッと意識が変わるんですよ」

実際、川に入った親子は、生き物探しに夢中になった。大人も子供も同じように、多摩川の生き物との出会いに目を輝かせた。



仕事で多摩川の定置網を仕掛けて生物調査を行っている山崎さんの事務所には、様々な釣り竿や網、ウェーダー（胴付き長靴）など、漁の道具が満載。

無責任な善意が多摩川を傷つけることに

「おさかなポスト」の創設は2004年、多摩川に熱帯魚を放流しようとしている人を見かけたのがきっかけだった。

「アユがいるくらい水がきれいなら、無事に生きてくれるだろうと考えたんです。多くの人は魚を飼えなくなったからといって自分で殺すことはできないため、川に流すことで罪悪感を小さくしようとしています。しかし、その行為が川本来の生物の生活を脅かすということまでは考えないんです」

川崎漁協の飼育施設を借りて誕

生した「おさかなポスト」の水槽には、2010年夏までに、300種以上、3万匹以上の水生生物が持ち込まれた。山崎さんはそれらの生物を事務所に引き取り、里親が見つかるまで飼育している。事務所に所狭しと並べられた水槽には、常時70種〜100種の生物がいるが、メンテナンスにかかる費用も相当なものである。

「月々の電気代が約10万円。とても一人では管理できませんから、どうしても人件費も発生しますし、エサ代や設備費を含めると毎月50万円ほどがかかっています」と笑う山崎さんだが、この費用は山崎さんが個人負担してきたというから驚きだ。2010年からようやく川崎市の助成を受けられるようになったが、それでも年間400万円ほどが持ち出しになっているそうだ。山崎さんがこまめであるのは、多摩川がきれいになってほしいと願う気持ちと「魚たちに罪はない」という想いからだ。

「外来種は邪魔ものだけでなく、みんな同じ命ですよ。例えば要注意外来生物のミドリガメを駆除したら褒められるけど、助けると非難されます。ブラックバスやブルーギルなど特定外来種を野外に放すと法人なら1億円以下の罰金で

山崎さんの事務所は引き取った魚たちで大変なことに…

山崎さんの事務所で里親を待つ魚たち



「おさかなポスト」に入れられたり、宅配便などで送られてきた生物は、山崎さんが事務所に引き取り、里親が見つかるまで飼育している。経済的事情などで飼いきれなくなるケースのほか、飼いが悪いために病気や奇形になってしまい、見た目がよくないという理由で愛情を失って手放す身勝手な例も多いという。ここでは病気を治療しながら里親の登場を待つ魚も多いのだ。



飼い主から直接受け取ったケヅメリクガメは現在8kg。最大80kgになる。

1.エンゼルフィッシュ（おさかなポストより。以下同）。2.シクリッドの仲間。3.ノーザンバラムンディ。4.グッピーやカージナルテトラなど。5.ディスカス。6.ダトニオとカラシンの仲間。7.ポリプテレス。8.アロワナとガーバイク。9.オスカー。10.ウーパールーパー（郵送で到着）。11.レッドテールキャット（多摩川で捕獲）。



いっぱいいるね

数字で知る多摩川ビックリDATA集

2000万人

1年間に多摩川へ遊びに来る人の数＝約2000万人。釣りやバーベキューなどのほか、毎日散歩に訪れる人がカウントされた延べ人数だが、驚きの数字。参考までに、東京ディズニーランドの来場者数は年間約1600万人。

460万人

多摩川の周りに暮らす人の人口＝約460万人。多摩地区や川崎市、世田谷区など有数のベッドタウンを流れる多摩川は、流域の人口も全国屈指。ちなみに多摩川より人口が多いのは、利根川、荒川、桂川、木津川、淀川。

99%

羽村取水堰まで流れてきた水のうち、飲料水に利用される分＝99%。多摩川の水は羽村市にある取水堰までに99%が飲料用として取水され、東京都の上水源の多くをまかなっている。羽村取水堰より下流には、処理された排水が流れている。

138km

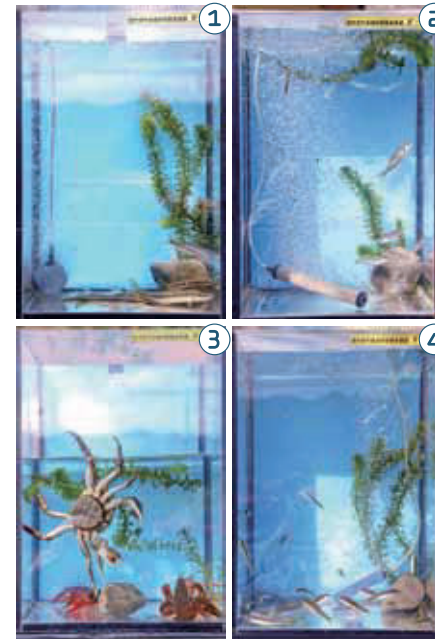
多摩川の長さ＝138km。山梨県甲州市にある笠取山の山頂付近に最初の一滴が生まれ、笛吹川、荒川、多摩川の3本に分かれる。海に流れ込むまでの長さは高低差の割には短く、日本で3番目に流れのきつい川となっている。

サークルに入っていました。本当に魚のことばかり考えていたんです(笑)。当時の多摩川といったらドロドロのひどい状態で、沿岸のゴミもすごかった。ある日、サークル仲間と遊び感覚でゴミ拾いをしてみたら意外と楽しくなり、多摩川の環境を守るために何かしたいと思い始めたんです」

山崎さんは釣り具メーカー勤務を経て、20代で自然環境コンサルタントの会社を立ち上げた。環境省や国土交通省などからの依頼により、多摩川をはじめとする様々な場所での生物の生息状況をリサーチし、生物をどう守っていくかというプランを練るのが主な業務内容だ。山崎さんの人生は、一貫して多摩川で遊び、多摩川で仕事をし、多摩川をよりよくしようと考えてきた。多摩川の水質が大きく改善された今、多摩川の素晴らしい姿を伝えるのが使命だと考えている。世代を超えて多摩川を愛してもらうことで、長期的に持続可能な環境保全が実現する。その基礎となるのが安全教育だ。

**子供の安全のために
親も意識改革が必要**

安全に川遊びするために、山崎



みんなで作った移動水族館の一部を紹介。左の4つの水槽は1.シマドジョウ 2.カワムツ 3.モクズガニ 4.アブラハヤ。この中でもともと多摩川にいたのはシマドジョウのみ。魚類の固有種は10種ほど。国内外来種を含めると20種ほどだ。日本の川に棲む生物をこんなにじっくりと観察する機会は、ありそうでなかなかない。

まずは川の楽しさと怖さを体感すること その経験によって、意識は変わる



移動水族館の横にはタッチングプールを設置。少々触られても平気なコイやカメなどに自由にタッチできる。

生き物とふれ合い 興味が膨らんでいく

水中に見える魚をタモ(すくい網)で追っても、魚たちの方が一枚上手で逃げられてしまう。山崎さんが伝授したコツはこうだ。タモを水底までつけ、そこに足踏みしながら追い込み、すくい上げる。草が生えている岸辺や大きな石がある場所を狙い目だ。要領を得た子供たちからは、次第に大きな歓声が上がっていくようになった。山崎さんは子供たちのタモの中をのぞいては、捕まえた生き物の名前を一つひとつ大声で発表してくれる。「ヌカエビ、ヤゴ、モツゴをゲットしましたー! このヤゴはギン

ヤンマのヤゴです。モツゴは岡山県のレッドデータブックの絶滅危惧種ですー!」という具合。自分が捕まえた生物の名前を知り、予備知識を得ることによって、生き物に触れ合えた喜びと興味が膨らんでいく様子がよく分かる。みんなで捕まえた生き物たちは種類別に分類され、移動水族館に展示された。

「一般的な水族館ではいろんな珍しい生き物を観察できますが、その生き物の生息地のことまで理解することはなかなか難しいでしょう。その点、移動水族館は、生き物が暮らす自然環境を実際に目にし、生命の存在を強く実感できます。持って帰りたいという子も多くなりますが、子供にも親にも、絶対に飼う自信がある人だけ持ち帰りなさいと言っています。少しでも不安なら、元に戻してあげようね、ゴミにだけはするなよ、と。そこで親子で相談して、飼う勇氣と飼わない勇氣の選択をするんです。真剣に考えた結果なら、どちらも正解だと思っています」

絶好の遊び場を 守りたいという想い

捕まえた生き物を飼いたいとい

た親への安全教育も含まれている。「子供が溺れる原因のトップは何だと思いませんか? 帽子やサンダルを流されて、それを追いかけてしまうからです。子供にはそんなの全部流しちゃいなさいと言っていきます。子供は親に怒られることを気にして、とっさに追いかけてしまうんです。だから、親には、子供たちの前で子供を絶対に怒らないでくださいと言っています」

長い時を経てようやく水質が改

生き物にはやさしくを忘れずに



イベントの最後は、川に向かってみんなで元気にバンザイ。川への感謝の気持ちを込めて、締めくくることが習わした。

山崎さん原案、奥さんが作画、娘さんたちが色を塗った紙芝居を上演。クイズを交えた軽妙な語り口に引き込まれていく。



ボートの上から順番に勢よく飛び込んだ。「鼻をつまむなよ」と山崎さん。鼻から水が入ってくるなど、川に落ちたときの状況を疑似体験するためのプログラムだ。

子供達の気持ちは、山崎さんには痛いほどよく分かる。川崎市に生まれ育った山崎さんの遊び場は、専ら多摩川だった。早くも小学生のときに、庭にコンクリートと岩で池を作り、多摩川で捕まえた魚たちを飼い始めた。大人になっても時間があれば、いつも多摩川へ出かけて遊んだという。

「大学は水産学科を選択し、釣り

善され、外来種侵入の問題にあえいでいる日本の川の典型が多摩川。ある意味、多摩川の番人であり、多摩川の伝道者である山崎さんのアプローチは、日本の川のように未来のための試金石ともいえる。毎日の飲料水のために不可欠であり、生物の宝庫であり、人々の癒やしの場所でもある川。その存在価値を再認識して、自分に身近なせせらぎをゆつくりと眺めに出かけてみてはいかがだろうか。

株式会社 日本触媒 姫路製造所



製造現場における情報伝達を円滑化 重要度と情報活用を意識した仕事のやり方に変革

日本触媒 姫路製造所では、「ものづくり一新」活動の一環として、製造設備の運転にかかわる情報の正確かつ円滑な指示・伝達を可能にするためのシステム構築に着手。運転中に発生した事象に対する現在の状況、過去の経緯、重要度をまとめて管理できる仕組みを実現しました。その結果、生産現場の仕事のやり方自体に変革がもたらされています。

紙や口頭による引継ぎでは
運転情報の正確な伝達と把握は難しい

株式会社 日本触媒は、「テクノア
メテイル」(テクノロジ)をもって人
と社会に豊かさや快適さを提供す
るを企業理念に事業を展開する
化学メーカーです。播磨臨海工業
地帯の西部に位置し、88万㎡の敷地
を有する姫路製造所は、同社の主
力工場として、塗料や粘・接着剤な
ど様々な用途に用いられるアクリ
ル酸エステル、紙おむつなどのサニ
タリー用品に用いられる高吸水性
樹脂をはじめ、精密化学品や機能
性化学品、自動車触媒など幅広い
製品を生産。国内のみならず世界
各国の産業界からも高い評価を受
けています。

「当製造所では、2007年以来、
『超安心なものづくり工場の実現』
を目指す『姫路ものづくり一新
(HMI)活動』を展開。ものづくり
基盤の強化と製造所全体の最適化
を図るため、品質保全、総合安全
業務、ロセス、オペレーション、設備
保全、人財力といった領域ごとに
チームを設置し、目指す姿の実現に
向けた取組みを推進しています」
(岡崎氏)

このうち、特にオペレーションの
領域で課題として浮上していたの

が、運転にかかわる情報の指示・
伝達に関する問題でした。
「製造現場では、4直3交替を基本
とするシフトオペレータと、常日勤
オペレータによる勤務体制を敷い
ていますが、これまで勤務交替時の
引継ぎやミーティングなどでは、運
転日誌をベースとした紙や口頭によ
る情報伝達を行っていました。し
かし、トラブルや注意事項などの詳
細な情報が正確に伝達されにくく、
課員全員への周知という面では問
題がありました」(宗近氏)

「引継ぎのミーティングに同席して
いない人、例えば、製造現場で発生
している情報を取りまとめて管理
する課長や、資料の作成に当たる
スタッフなどが、後から運転日誌や
記録類を見ただけでは、現場で発
生した事象の内容や経過を明確に
把握することができない、といった
課題もありました」(野本氏)

フォーム画面のアレンジが
容易に行えることが決め手

こうした課題を解決し、運転に
かわる情報の正確かつ円滑な指
示・伝達を実現するために導入さ
れたのが、山武の操業知識ベース
Operation Knowledge Base™
(OKB)でした。

「OKB以外の製品の導入や自主
開発による対応も検討しましたが
、利用部門でフォーム画面のアレ
ンジが容易に行えること、利用に際
して高度なスキルを必要としない
こと、などが選定の重要な決め手
となりました」(岡崎氏)
姫路製造所がOKBの採用を決
めたのが2008年9月のこと。その
後、帳票設計が開始され、全体で
1000種類以上あった運転日
誌・記録類のうち、OKBで電子
化する対象を95種類に絞り込んで、
34種類のフォームに集約。これら標
準化されたフォームをベースに、各
製造部署がニーズに応じてカスタ
マイズを行うことになりました。そし
て、運用設計・試運用などの工程を
経て、2009年4月から同システ
ムは本格的に稼働を開始しました。
ムは本格的に稼働を開始しました。

「発生した事象に関する一連の経
緯が常にリンクされた状態で管理
されるので、課長やスタッフなどに
よる資料や月次実績報告書をまと
める際の業務負担が大幅に軽減し
ました。また、オペレータがシステ
ムに蓄積したデータから、発生し
た事象に関する過去事例の検索が
電子化により早く漏れなくできる
ようになりました。これにより定量
的には、年間で4500時間の削減
につながっています。加えて、記入ス
ペースの限られた紙の日誌から
OKBに変わったことで記入スペー
スが増え、今まで紙には書ききれな
かったオペレーション内容や現場状
況を付加することができるようにな
りました。運転情報をナレッジとし
て活用できるような仕組みも整
い、今後のさらなる活用が期待され
ています」(野本氏)

「その一方で、設備保守部門の作業
効率向上にも貢献しています。
OKB導入前は、現場の運転日誌
を見る機会ほとんどありません
でした。しかし、OKB導入後は、例
えば、ある設備で障害が発生した

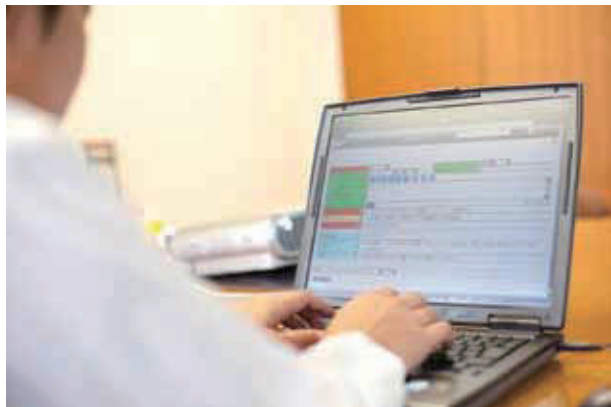
「発生した事象に関する一連の経
緯が常にリンクされた状態で管理
されるので、課長やスタッフなどに
よる資料や月次実績報告書をまと
める際の業務負担が大幅に軽減し
ました。また、オペレータがシステ
ムに蓄積したデータから、発生し
た事象に関する過去事例の検索が
電子化により早く漏れなくできる
ようになりました。これにより定量
的には、年間で4500時間の削減
につながっています。加えて、記入ス
ペースの限られた紙の日誌から
OKBに変わったことで記入スペー
スが増え、今まで紙には書ききれな
かったオペレーション内容や現場状
況を付加することができるようにな
りました。運転情報をナレッジとし
て活用できるような仕組みも整
い、今後のさらなる活用が期待され
ています」(野本氏)

仕事のやり方自体に
変革がもたらされる

OKB導入の成果は、既に様々な
局面において表れています。まず挙



ミーティングの際には、必要に応じてOKBの画面をプロジェクタで映し出し、
参加者が内容を確認しながら進められる。



姫路製造所内には計300台のPCが設置されているが、そのいずれからでもOKBにアク
セスが可能。運転情報のユビキタス化が実現されている。

株式会社 日本触媒 姫路製造所



所在地：兵庫県姫路市網干区興浜
字西沖992-1
開設：1960年
事業内容：基礎化学品、機能性化学品、
環境・触媒製品の研究開発
および製造



化成品製造部
製造第2課
主任技術員
宗近 史郎氏



ファイン製造部
製造第1課
1係長
野本 耕治氏



エンジニアリング部
電気計装課
課長
後尾 勝之氏



HMI推進室
兼 生産管理センター
主任部員
岡崎 和人氏

中国現地法人の 営業機能および生産拠点の統合により 現地のお客さまの価値最大化を目指す

今後も急速な成長が予想される中国において

現地法人の営業機能統合およびオフィスと生産拠点の集約・統合を実施。

建物およびプラント・工場分野の事業のシナジー効果で

お客さまの価値最大化を目指す。

中国における各領域のビジネスを
継続的に発展

azbilグループでは、2010年度からスタートした中期経営計画において、今後4カ年を「発展期」と位置付け、過去3年間で強化してきた事業基盤の下で、製品とサービスを通してお客さまに提供する価値の最大化を目指しています。その中で大きな柱として位置付けられているのが、海外事業の強化です。特に、ここ20年来、急速な経済発展を遂げ、今後もさらなる成長が見込まれる中国は、azbilグループにとって最も重要な市場の1つとして位置付けられています。

azbilグループの中国市場への参入は古く、1970年代初頭に制御機器の同国市場への輸出を開始し、1980年には同国内に山武上海技術センターを設立。さらに1994年以降、現地企業との合併を含め各事業単位で順次、現地法人を設立し、中国におけるビジネスを本格化させてきました。特に販売系については、工場・建物市場向けの空調制御製品やシステムの製造・販売を行うビルディングオートメーション(BA)事業2社、プラント向けの自動制御機器やシステムの製造・販売を行うプロセス

システム(PS)事業2社、プラント向けの自動制御機器やシステムの製造・販売を行うプロセス



上海市浦東新区に移転統合したアズビルコントロールソリューション(上海)の事務所。



2009年末に移転し稼働を開始した上海アズビル制御機器のザン橋(ザンチャオ)工場。主にPA製品であるDCS、調節弁、トランスミッタの生産工場だったが、2010年6月末からBA事業の制御盤製作も開始した。

スオートメーション(PA)事業1社、そして工場市場向け制御機器の販売を行うファクトリーオートメーション(FA)事業1社の計4社の現地法人を中心に、中国国内に進出している日系企業や現地のお客さまのニーズに応える製品やサービスの提供、および技術支援を行うことでビジネスを拡大し着実に成長を遂げてきました。

**販売系現地法人の営業機能統合で
トータルソリューションを提供**

そうした中、azbilグループでは、2009年1月から、これら販売系現地法人のうち、上海を拠点

とするBA事業2社とFA事業1社の計3社の営業機能を統合しアズビルコントロールソリューション(上海)を設立、オフィスを同市浦東(フートン)新区に移転。2009年7月には現地企業との合併であるPA事業会社も同一ビル内への集約を完了しました。その狙いは、単にオフィスを1カ所に束ね、情報共有を進めるというだけではなく、azbilグループが提供する様々な製品やサービスに関する窓口を市場ごとに一本化することで、お客さまとの円滑なコミュニケーションを図り、それによってお客さまに提供する価値を高めていくことに

あります。

- 1 トランスミッタの組み立て、調整を行う上海アズビル制御機器の社員。
- 2 ザン橋工場で生産された制御盤。
- 3 ポジショナの取付け作業を待つ調節弁。ザン橋工場では、バルブのアフターメンテナンスも実施している。
- 4 制御盤内の配線作業を行うアズビルコントロールソリューション(上海)の社員。



に対して、より幅広いソリューションを提案することが可能となったのです。

**シナジー効果もたらした
成功事例も既に登場**

azbilグループでは2009年末にPA事業系の生産拠点を南橋(ナチャオ)工場から2倍の敷地面積のあるザン橋(ザンチャオ)工場に拡張移転しました。さらに2010年6月には、BA事業系の生産設備を同ザン橋工場へ移転。ソリューション事業のエンジニアリングおよび生産拠点としてBA、PA、FA事業間での共同生産体制が開始され、お客さまのニーズに沿った建物向け、プラント向けおよび工場向けシステム製品にかかわるハードウェア/ソフトウェア設計、製造が同一の工場内で行えるようになりました。これにより、例えば需要変動時など、BA、PA、FA事業の間で互いに生産ラインを融通し合うといったことも可能になるなど、お客さまに大きな安心をお届けすることにつながっています。また、各事業の生産担当者が互いの製品に関する知識を高め合うという成果も出てきており、それによって、従来にはない、新たな着想に基づく製品の生産に向けた可能性も大い

に広がっています。以上のような、中国における営業機能および生産拠点の集約・統合によるシナジー効果と呼べるものも既に表れてきています。例えば、PA事業のフィールド機器を納入していたお客さまが抱えていた中国国内で制御盤を調達したいというニーズに対応し、制御盤製造のノウハウを持っているBA事業が、そのお客さまの要望に応じた仕様の制御盤を製造し、現地における製品の安定供給を支えています。それに加え、PA製品である分散形制御システム(DCS)の制御盤についても、今までは協力会社に製作依頼していたものが同工場内のBAで製作することが可能となり、業務の効率化・短納期化が進みました。

このようにBA、PA、FAのそれぞれの事業が持つ特性の強みを活かしつつ、連携を図る取組みがスタートしています。お客さまとの、またazbilグループ内での円滑なコミュニケーションを図ることとお客さまのニーズ的確かつ、付加価値の高い対応を目指します。今後もazbilグループでは、お客さまからazbilブランドへの信頼と実績を得るべく努力していきたいと考えています。



azbil Topics

製品情報

ニュース

セミナー情報

展示会情報

山武ケアネット かたくり辻堂開設

山武ケアネット株式会社は、神奈川県茅ヶ崎市に訪問介護事業所「かたくり辻堂」を2010年11月1日に開設しました。

「かたくり辻堂」は、訪問介護事業としては21店舗目、山武ケアネットとしては39店舗目のサービス拠点となります。

ご利用者さまとそのご家族のプライバシーを守りながら日常生活の中で共同作業を通じてご利用者さま自身が自分でできるという「気づき」「自信」を促し「自分らしく意欲的に生きていく」エネルギーとつながるようお手伝いさせていただきます。併せて介護に当たるご家族の負担を少しでも軽減する環境づくりをお手伝いします。山武ケアネットは、地域に根差した介護サービスでご利用者さまのQOL (Quality of Life) を高めていくことに貢献してまいります。

【かたくり辻堂】
住 所：〒253-0013
神奈川県茅ヶ崎市赤松町1-6
グレイス茅ヶ崎1階
電 話：0467-50-1161
F A X：0467-51-1640



● 山武ケアネット株式会社
マーケティング部 TEL：03-5718-5100

データセンター向け環境ソリューションに気流制御システム機能を追加 — サーバルーム内のコントロールにより、 空調にかかわるエネルギー量を約30%削減 —

株式会社 山武は、データセンター向け環境ソリューション「AdaptivCOOL™ (アダプティブクール)」に、サーバルーム内の気流を最適な状態に保つとともに、省エネルギーを実現する新機能「気流制御システム機能」を追加、販売開始しました。

今回追加した機能は、専用コントローラにより、サーバルーム内の熱負荷や温熱環境を監視し、床冷却ファン、天井還気ファンの風量制御に加え、CRAC (クラック)*1の適切な運転台数制御を行う新たなシステムです。これによりサーバルーム全体の気流を適切に制御することが可能となり、最適な温熱環境を維持し、さらなる省エネルギー化を図ります (空調にかかわるエネルギー量を最大約30%削減 / 500㎡規模の国内データセンター)。

AdaptivCOOLは、2009年1月に日本国内における販売契約を締結した米国Degree Controls (ディグリーコントロールズ) 社製品であり、データセンターの課題とされている熱だまり*2を床冷却ファン、天井還気ファンなどを設置することで解消し、最適な温熱環境や省エネルギーを実現するソリューション製品です。

【AdaptivCOOL】

機 能：既存のデータセンター／サーバルームの温熱環境を熱気流シミュレーションにて問題点 (熱だまり) を可視化した後に、問題箇所に構成機器 (床冷却ファン、天井還気ファン) を設置、サーバからの排熱の還気や熱だまりへの十分な冷気供給を行い解消。

新機能「気流制御システム」:

専用コントローラが構成機器の制御、CRACの運転台数制御を行い、室内全体の気流を適切にコントロールし、最適な温熱環境と省エネルギーを実現。

特 長：・高機能床冷却ファン、天井還気ファンにて熱だまりを解消。
・専用コントローラによる最適な温熱環境の実現。
・温熱環境の監視をWebで実現。各機器の温度状況、運転状況、警報をWeb上で監視可能。



*1 CRAC (Computer Room Air Conditioner) : サーバルームやデータセンターに設置される精密空調機。
*2 熱だまり: サーバの排熱や床下配線による床冷却空気の阻害などが原因となって発生。
※ AdaptivCOOLは、Degree Controls社の登録商標です。

● 株式会社 山武 ビルシステムカンパニー コミュニケーションマーケティング部 TEL：03-6810-1112

ビルシステムカンパニーが「2010年度 マイルズ賞」を受賞

株式会社 山武のビルシステムカンパニーが、社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会から「2010年度 マイルズ賞」を受賞しました。

マイルズ賞とは、バリューエンジニアリング (以下、VE) の創始者であるローレンス・D・マイルズ氏の名前を冠した権威ある賞で、1982年に創設されました。組織的・継続的にVE活動を実践し、顕著な業績をあげている企業の各部門または事業部門 (本社機構、事業所、工場、研究所、支店など) および中堅企業に授与されるものです。今回、山武のビルシステムカンパニーがマイルズ賞を受賞した理由として、

1. 新製品開発業務におけるQCD (Quality、Cost、Delivery) の保証を図る組織力強化のVE活動として、多くの創意工夫がうかがわれること
2. 管理技術の専門家 (バリューマネージャー) が、開発業務の機能保証の中核的役割を果たしており、通常の開発業務への範を提供していること
3. 目標を確実に達成するために当該業務の事前保証を試みる「プロセス・デザイン」という方法論を適用し、目標記述書やプロセスデザインシート、プロセスデザイン管理シートなどを用いてVE計画のPDCAサイクルを回すことで、新製品開発に要求される業務と新製品QCD達成につなげていることなどが挙げられます。

● 株式会社 山武 経営企画部広報グループ TEL：03-6810-1006

UVチューブが「2010年“超”モノづくり部品大賞」部品賞を受賞 — 燃焼安全制御機器の信頼性向上に貢献 —

株式会社 山武の製品であるUVチューブが、2010年“超”モノづくり部品大賞 (主催:モノづくり推進協議会、日刊工業新聞社) において、電気・電子部品賞を受賞しました。

本賞はモノづくりにより、産業や社会の発展に貢献することを目的として、緑の下の方力持ちである製品や部品・部材に焦点を当て、2003年に「モノづくり部品大賞」として創設されたものです。2008年から、「超”モノづくり部品大賞」としてリニューアル、内容が拡充されました。現在は、「機械」「電気・電子」「自動車」「環境関連」「健康・医療機器」「生活関連」の6分野を対象に、日本のモノづくりに寄与する部品・部材に授与されます。

今回受賞したUVチューブは、専用のソケットと組み合わせて使用する紫外線火炎センサです。燃焼安全制御機器の1つで、安全で信頼性の高い火災監視を実現します。従来製品と比較して小型化を実現、さらに検出特性のばらつきを大幅に縮小したことで、幅広い

分野での使用を可能としました。また、ガラス加工からガス封入工程までのすべての生産工程について、自社開発設備での実施を実現しました。



UVチューブ

● 株式会社 山武 経営企画部広報グループ TEL：03-6810-1006

azbilグループ、技術研究報告書「azbilテクニカルレビュー」を発行

株式会社 山武は、azbilグループにて行われた研究開発の論文集、「azbilテクニカルレビュー」(2011年1月発行号)を発行しました。

本誌では、巻頭言として東京大学情報理工学系研究科 原 辰次教授に「制御からのイノベーション“グローバル制御”の実現に向けて」を寄稿いただいています。また、本文では「省エネルギー技術」「計測制御技術」「安全安心実現のための技術」「生産性向上のための技術」などの分野において、「人を中心としたオートメーション」を実現するための研究開発の事例を紹介しています。

■ 内容はこちらから
<http://www.azbil.com/jp/library/>
■ 資料請求はこちらから
<https://www.azbil.com/jp/inq/request.html>

● 株式会社 山武 経営企画部広報グループ TEL：03-6810-1006



今月の表紙



中国／四川省

● MERRY メッセージ 「新しい教室でしっかり勉強したいです」

● 撮影メモ

日本赤十字社の支援によって学校を建てようとしている、綿陽という町の小学校で取材。まだ震災の爪痕が生々しく残る町の小学校では、子供たちがカビの生えたノートや、インクの出ないペン、ダメージを受けた机で、一生懸命に勉強していました。撮影が始まると、「笑笑(シャオシャオ)!!!」の声。地震があったことなど忘れるくらい、力強く、美しい笑顔でした。ある女の子は、日本への感謝の気持ちを絵で表してくれました。地震で倒れかかって傷んでいる木を、鳥が助けに来てくれる絵。「この木は私たち。この鳥が日本の皆さんよ!」

水谷事務所代表／MERRY PROJECT 主宰 水谷 孝次さん

Present

いのちの川

— 魚が消えた「多摩川」の復活に賭けた男 —

かつては生活排水に汚染され「死の川」ともいわれていた多摩川。その多摩川に一人立ち向かったのが、特集で紹介した山崎充哲さん。水質を検査したり、魚道を掘ったりと、日々多摩川の清流化に挑んだ感動の記録。

■ 幻冬舎
■ 山崎充哲 著
■ 価格1,365円 (税込)



本書を5名の方にプレゼントいたします。お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号をご記入の上、下記宛先に1月末日までにご応募ください。厳正な抽選の上、当選者ご本人に直接当選の連絡をいたします。なお、社員並びに関係者は応募できません。

azbilグループPR誌「azbil」をご愛読いただき、 ありがとうございます。

■ 本誌に関するお問い合わせやご意見、ご希望、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、皆さまからのお便りをお待ちしております。お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号などをご記入の上、下記まで郵送、FAX、電子メールなどでお寄せください。

■ ご住所などの変更に関するご連絡は、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号も併せてお知らせください。

■ お問い合わせ: プレゼント応募宛先
〒100-6419
東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル
株式会社 山武
azbil 編集事務局
TEL：03-6810-1006
FAX：03-5220-7274
E-mail: azbil-prbook@azbil.com

■ 発行日：2011年 1月 1日
■ 発行：PR誌 azbil 編集事務局
■ 発行責任者：岡 訓仁
■ 制作：日経BPコンサルティング

編集後記

多摩川といえば、多摩川の花火大会を思い出します。おばあちゃんが大きなゴザを抱えて家族全員で河原まで歩いて、空から降ってくる花火を見上げました。今ほど豪華な花火もなくシンプルな花火でしたがすごくきれいだったことを思い出します。そのころの多摩川がひどく汚染された川だったとは、子供のころの私は思いもしませんでした。やはり環境を元に戻すのには、長い年月が必要なんです。きれいになった川で、今度は元の生態系が少しでも復活するといいいと思います。(akubi)



美しい色のお湯がかけ流されている「明礬 湯の里」の大露天風呂。別府湾や高崎山を一望できる。



大分県 明礬温泉

別府八湯の1つに数えられる 湯の花採取で栄えた個性派温泉

源泉数は2839カ所、日本一、湧出量は13万7040ℓ/日で世界2位を誇る別府温泉は、別府市内の温泉の総称。別府八湯とも呼ばれている。有名な鉄輪温泉などと並び、八湯に数えられる明礬温泉は、標高350mを超える別府一の高台に広がるのどかな温泉地帯。江戸時代から湯の花の採取で栄え、自然豊かな湯治場としても親しまれてきた。現在も素朴なわら葺き小屋で、昔ながらの湯の花製造を見学できる。

硫黄をたっぷり含んだ湯は、白濁し、光によって青白く輝く。無機塩類が皮膚のたんぱく質と結合して膜を作ることから保温・保湿効果が高いらしく、湯冷めしにくい。しかも、汗腺など脂肪の汚れを乳化して洗浄するため、浴後の爽快感も格別である。街なかの方々から湯煙が上がる別府市中心部の風情もいいが、郊外でゆるりと楽しむ湯も、名湯・別府温泉の醍醐味である。

泉質・効能

単純酸性硫黄泉

美しい淡い乳白色。硫黄のにおいを強く感じる。しっとりとした滑らかな湯ざわり。効能は慢性皮膚病、慢性婦人病、リウマチ、糖尿病、高血圧症、動脈硬化症、切り傷、水虫など。

■写真の湯

明礬 湯の里

TEL: 0977-66-8166

<http://www.yuno-hana.jp/>

〈アクセス〉

車/大分自動車道別府ICから県道11号、国道500号経由約8分。電車/JR別府駅から安心院・アフリカンサファリ行きバス約40分、地蔵湯下車。

立寄り処

別府地獄めぐり

湯がコバルトブルーに染まる海地獄、酸化鉄などによって真っ赤に染まる血の池地獄、熱湯が噴出する間欠泉の龍巻地獄など、温泉がつくり出した8カ所の不思議な自然美を見学できる。所要約2時間、8地獄共通観覧券大人2000円。



<http://www.beppu-jigoku.com/>

明礬温泉



azbil 創業1906年 山武の進化
グループ 人を中心としたオートメーション

国内

- 山武 ●山武商会
- 山武コントロールプロダクト
- 山武エキスパートサービス ●山武フレンドリー
- 山武ケアネット ●安全センター
- セキュリティフライデー ●原エンジンアリング
- 金門製作所 ●山武瑞穂 ●ロイヤルコントロールズ
- 太信 ●テムテック研究所

海外

- アズビル韓国 ●アズビル台湾 ●アズビルベトナム
- アズビルインド ●アズビルタイランド
- アズビルフィリピン ●アズビルマレーシア
- アズビルシンガポール ●アズビル・ベルカ・インドネシア
- アズビル機器(大連) ●アズビル情報技術センター(大連)
- 山武環境製薬技術(北京)
- アズビルコントロールソリューション(上海)
- 上海アズビル製薬機器 ●アズビル香港
- 上海山武自動車機器 ●アズビルノースアメリカ
- バイオビザンツシステムズ
- アズビルブラジル ●アズビルヨーロッパ

〈販売店〉

1 January 2011

azbil グループ PR 誌 azbil (アズビル)



本誌には、環境にやさしい大豆油インキと森林認証紙を使用しています。本誌からの無断転載・複製はご遠慮ください。